

科目名称	運動療法学総論
授業コード	BG260
英語名称	
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	塚田 絵里子, 安田 耕平, 芹田 透
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>運動療法学は、理学療法の最も大きな柱として位置づけられており、解剖学や生理学、運動学などを背景に成り立っている学問である。それらの知識を統合しながら運動療法学を体系的に学び、実践に結びつける必要がある。</p> <p>本授業では、臨床の現場で長年理学療法士として従事してきた教員が、その経験を活かして、身体の運動による反応や運動についての効果などを踏まえて、基本的な運動療法学を理解できるよう講義する。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士が行う治療の中でも運動療法学は重要な位置づけとなっている。長年臨床経験を持つ理学療法士が科目を担当し、その経験を活かして講義を行う。
到達目標	<p>本学が掲げるディプロマ・ポリシーの基礎医学および理学療法学に関する知識の習得を目指す。</p> <p>1)運動が身体に与える影響を、解剖・生理・運動学的観点から理解する。</p> <p>2)基本的な運動療法学手技の原理および実施方法を理解する。</p>
計画・内容	<p>第1回 運動学の基礎知識 担当：芹田(理学療法士)</p> <p>第2回 骨と関節の構造と機能 担当：芹田</p> <p>第3回 筋の構造と機能 担当：芹田</p> <p>第4回 関節可動域制限に対する運動療法学 担当：芹田</p> <p>第5回 筋力低下に対する運動療法学 担当：芹田</p> <p>第6回 神経の構造と機能 担当：塚田(理学療法士)</p> <p>第7回 運動学習 担当：塚田</p> <p>第8回 中枢神経性運動障害に対する運動療法学 担当：塚田</p> <p>第9回 協調性障害に対する運動療法学 担当：塚田</p> <p>第10回 痛みの基礎知識と痛みに対する運動療法学 担当：塚田</p> <p>第11回 運動と呼吸機能 担当：安田(理学療法士)</p> <p>第12回 運動と循環機能 担当：安田</p> <p>第13回 運動と代謝機能 担当：安田</p> <p>第14回 持久力低下に対する運動療法学 担当：安田</p>

計画・内容	第15回 まとめ 担当：塚田・芹田・安田
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は教科書とスライドを用いて進行する。必要に応じて、他の視覚教材の利用やWebclass上に資料をアップロードする。 ・自己学習用課題を提示する。
能動的な学びの実施	本科目は、運動療法の一部を学生同士で実際に体験する体験学習を含む。また、あらかじめ提示された問題を授業の中で解き、解説を考えるなど、問題解決型学修も一部取り入れて行う。
授業時間外の学修	<p>予習：あらかじめ教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと (各回1時間程度)</p> <p>復習：Webclassにアップロードされた自己学習用課題を中心に教科書や配布資料を見直し、講義ノートを整理しておくこと (各回1～2時間程度)</p>
教科書・参考書	【教科書】市橋則明 編「運動療法学 障害別アプローチの理論と実践 第2版」(文光堂)
成績評価方法と基準	定期試験(100%)にて評価する。
課題等に対するフィードバック	自己学習用課題に関する質疑応答をを第15回の講義内で実施する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン上で双方向性の講義を行う。</p> <p>小テスト(15%)理解度確認(35%)、定期試験(50%)にて評価する。</p> <p>試験はオンライン上でMicrosoft Forms等を使用して実施する。</p>